



コロナ禍の市消防本部の現状と今後は

神田 康史議員

感染拡大防止に配慮し行事を実施した
消防長



▲愛西市消防本部

問 コロナ禍における消防本部の現状を前と後に分け、その活動実態は。

答 新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生した当初は、中止した行事等が多くあったが、その後対策がとれる行事は行ってきた。例えば消防団員の士気の維持や訓練成果を確認する場が必要と考え、秋に全分団を対象とした消火活動訓練は実施した。消防団年末夜警も密集しない工夫を施

し活動実施した。

問 第一次総合計画の総括と第二次総合計画の進捗については。

答 第一次は、①防災基盤の整備・充実②消防団の充実・強化③救急救命体制の充実が柱だ。①については、消防車や救急車の更新や整備、消防通信環境の整備を実施。②については、安全装備品の整備に加え、南海トラフ地震や風水害への対応とし

て、救助用ゴムボート・救命胴衣等資機材を全分団に配備し、有効で安全な活動ができるよう充実・強化に取り組んだ。③については、救急救命士有資格者を採用することで一人でも多く救急隊に配備できる体制を整えた。第二次総合計画では、消防指令台の共同運用や広域化（近隣消防との連携協力を図る）を構築し、名古屋市役所内に共同指令センターを設置し運用を開始する予定をしている。

成が非常に重要であると考える。消防は24時間勤務であり、寝食を共にし、災害現場では厳格な指揮命令体制が必要な職場体制である。よって人間関係が非常に大切だ。人材育成により各種災害に的確に対応してくれると確信している。職員が一丸となり市民の生命と財産を守るので、応援してほしい。

ついで、安全装備品の整備に加え、南海トラフ地震や風水害への対応として、

る。

問 在任中の総括と、消防本部への思いは。

答 コロナ禍で職員が感染の恐怖と闘いながら、使命感と責任感を持ち、感染者や感染疑いのある傷病者を搬送した。消防職員から感染者を出すことなく業務を継続できたことに感謝している。

課題については、人材育